「五葉山の魅力」

五葉山自然倶楽部創立10周年に寄せて

⑰

リレーエッセイ

ふるさとの山「五葉山」

住田町上有住　水野　久志男

釜石で生まれ育った私は、「愛染山」「五葉山」という山の名前をよく耳にしてきました。小学校のころから校歌や応援歌の歌詞に多く出てきたことが思い出されます。

高校生になり、通学途中のバスの中から西に見える三角に尖った山、雪の愛染山がとても素晴らしい山に見えました。でもそのころは、山に登ることなど一度も考えたこともありませんでした。

社会人になり、五葉山に登る機会がありましたが、それほどの感激もなかったと思います。しかし、楢の木平コースを何度か登るにつれて、だんだん五葉山の魅力に取りつかれていきました。

昭和六十年、藩政時代の南部と伊達の藩境である釜石市唐丹町に楢の木平牧場が開かれ、五葉山への登山道もできました。腐葉土を敷き詰めた白樺などの混合林をぬけ、藩境と言われる土堤の脇を歩いて行くと鳩が峯に続きます。

まるで自然の中に溶け込んでしまいそうな登山道です。そして林道出合い、石割コメツガ、七不思木（コメツガ、ミズナラ、ナナカマドなど七種類の木が絡まっている）を通り、しばらく登ると釜石市街が眼下に見える稜線に出ます。

汗をかきながら喘いで登ってきた体を心地よい涼風が癒してくれます。太古の息吹が聞こえる原生林、その原生林の中にある日の出岩など、いろいろ楽しめる趣のあるコースだと思います。

私をますます登山好きにさせた出来事がありました。それは山の仲間との出会いです。ある年の暖かい春の日、一人で楢の木平コースを楽しんでいると、私の前に二人の女性がいました。しばらく二人の後を歩いていましたが、「お先にどうぞ」と言われ、先になって山頂を目指しました。

山頂に着くと昼食を楽しむ登山者がたくさんいて、日枝神社から少し下ったところにある田の神（稲荷神社）の水場で、私の兄が所属する釜石のアトラス山岳会のメンバー数人が、缶ビールを飲みながら昼飯を楽しんでいました。

私も誘われ一緒に食事をしていたところに、先ほどの女性二人が現れました。彼女たちもアトラス山岳会の会員だったのです。

五葉山神社付近まで散策した後、「そろそろ下山だな」「どーだ、大松に下りるか」と誰かが言いました。「楢の木平コースを登ってきたはずなのに、大松に下りる？」。

自分では思いもつかない発想をすることに驚かされました。楽しそうなグループだなと思いながら、大松コースをまだ歩いたことのない私は、ワクワクしてみんなの後をついて行きました。それがアトラス山岳会との出会いであり、山歩きの始まりです。

それからは、時間が許す限り五葉山へ登りました。私にとって五葉山で過ごす時の楽しみの一つは、避難小屋である「しゃくなげ荘」で山仲間と酒を酌み交わし、山の話をすることです。

眼下に見える大船渡湾の夜景、海に浮かぶ漁火、満天の星空を眺めたり、太平洋から昇る朝日や冬には石楠花の木に咲く霧氷をカメラで写したりすることも楽しみです。「しゃくなげ荘」がなければ五葉山の魅力は、半減するだろうと思います。

今は住田町に住んでいる私は、縁あって有住小学校の五葉山登山のお手伝いをすることになり、昨年も子どもたちと一緒に五葉山登山を楽しみました。

その時、私は一等三角点（一、三四一㍍）モニュメント付近の花崗岩とガンコウランの中に小さな白い花を見つけました。早速写真に撮り、帰って調べたら「イソツツジ」という名前の花であることが分かりました。年間を通して十数回五葉山に登っている私も初めて見た花です。

学校登山では、ただただ前の人について頂上を目指して登った子どもたちも多いと思います。春夏秋冬、季節ごとに味わいの違う五葉山。いつかのんびりと五葉山の自然を満喫できる登山を楽しんでほしいと思います。何か新しいものを見つけることができるかもしれません。

これからも「ふるさとの山」五葉山に登り、自然を楽しみたいと思います。

【執筆者プロフィール】昭和二十四年釜石市大渡町生まれ。釜石南高校卒。四十三年同市役所に就職し、平成五年に退職。兄の経営する協立管理工業㈱（同市只越町）に就職し、住田町には八年から居住。元年、アトラス山岳会（釜石市）に入会し、現在は釜石山岳協会副会長。

数多い五葉登山で初めて目にした「イソツツジ」